

## 茶馬古道の取材後記 — 西双版纳から徳欽にいたる古道の旅を終えて —

小林尚礼

### ○茶馬古道とは

雲南と四川、そしてチベットの間をつなぐ交易の道である。雲南や四川の茶葉と、チベットの馬を取引し、馬(ラバ)を使って運送したことから「茶馬古道」と呼ばれる。広義には、北京や東南アジアへ茶葉を運んだ道も含む。また、チベットからインドそしてヨーロッパへも続くことから、古の国際交流の道といえる。

「茶馬古道」は、唐代にその原形が生じたといわれる。唐の皇女「文成公主」が吐蕃に渡ったのち、チベットに喫茶の習慣が根づいた。宋代には、茶の需要が高まったチベットと、高原産の軍馬を必要とした中国の間で、安定した交易が行われるようになった。元・明代には、チベットが軍馬の重要な供給地となり、麗江の土司に任命されたナシ族の木氏が、茶馬古道の交易を掌握した。チベットからは薬草や毛皮なども運ばれるようになり、中国からは茶葉のほかに塩や砂糖が上がった。清代に入ると木氏は特権を失い、民間の商人が交易を担うようになった。

日中戦争時には、インドから中国へ軍事物資などを輸送する道として栄えた。茶馬古道の最盛期と言われる。戦後、中華人民共和国の成立とともに個人商売は禁止され、茶馬古道は活気を失った。しかし、1959年のチベット解放の前後に再び特需にわき、道は息を吹き返す。その後、馬のキャラバンは車へと置き換わり、茶馬古道はその長い役目を終えた。

### ○今回の取材地・日程

5月6日	日本発	5月27日	香格里拉
5月7日	昆明	5月28日	香格里拉
5月8日	昆明	5月29日	→奔子欄
5月9日	昆明	5月30日	→徳欽
5月10日	→西双版纳 景洪	5月31日	徳欽
5月11日	西双版纳 易武	6月1日	→能海寛終焉の地→阿東村
5月12日	西双版纳 倚邦	6月2日	→溜同江→梅里水
5月13日	西双版纳 易武	6月3日	→飛来寺
5月14日	西双版纳 景洪	6月4日	→明永村
5月15日	→思茅→普洱	6月5日～8日	明永村
5月16日	⇔困鹿山(茶樹王)→鎮沅	6月9日	→香格里拉→昆明
5月17日	⇔哀牢山・千家寨→巍山	6月10日	昆明
5月18日	→鳥道雄関→雲南駅	6月11日	昆明
5月19日	→大理	6月12日	帰国
5月20日	大理		
5月21日	→風羽		
5月22日	→沙溪寺登街→麗江		
5月23日	麗江		
5月24日	麗江(東河、玉湖村)		
5月25日	麗江(白沙)		
5月26日	→石鼓→十二欄干→香格里拉		

### ○掲載予定誌

『Coyote(コヨーテ)』 スイッチ・パブリッシング刊  
2007年11月10日頃発売  
「特集:茶馬古道をゆく」

